

埼 葛 退 職 校 長 会 会 報

第 52 号

平成29年12月発行

発行責任者
山 根 和 夫

創立五〇周年を迎えて

埼葛退職校長会

会 長 山 根 和 夫



本退職校長会は、昭和四三年四月二十九日、埼玉の有志四〇数名によつて発足し、記念すべき創立五〇周年を迎え、ここに記念誌を発刊できますことは誠に意義深く、この上ない喜びであります。

顧みますと、本退職校長会の発展に限りなく寄与して頂きました、歴代会長様はもとより、事務局の皆様、そして会員お一人お一人の皆様のご支援、ご協力の賜と心より敬意を表し、深く感謝申し上げます。

「光陰矢の如し」と申しますが、本退職校長会は、五〇年が経過し、社会が大きく変化する中、我が国の教育も大改革の渦中にあり、私

どもの福祉に関わる事案も大変厳しい時代を迎えています。また、高齢化、少子化、国際化はますます進展し、情報機器の急速な普及が高まる中、有害情報と青少年を取り巻く環境も大きく変化してまいります。

五〇周年を契機に、これからの諸課題に対処し、教育支援と会員の豊かな生甲斐を求め、本退職校長会の目標に向け全力を尽くしていきたいと考えます。

私事ですが、子供たちの美術展等の審査・表彰式に年に数回参加していますが、表彰状を授与した後、子供たちが「有難うございませ」と『笑顔』で返してくれます。読書好きの孫が、本を読みながら一人『微笑ん』でいます。この『顔』を見てると私自身心が癒されているのを感じます。

本退職校長会も様々な活動の中で『笑顔』が溢れています。この笑顔が、五〇年、一〇〇年と永遠に続くことを願ってやみません。結びに記念誌発刊に際し、予算

特 集

埼葛退職校長会
五〇周年記念号

の少ない中ご工夫・ご協力を賜りました関係各位の皆様衷心から感謝申し上げます。今後とも皆々様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。まして、ご挨拶といたします。

埼葛退職校長会

結成五〇周年に寄せて

埼玉県退職校長会

会 長 石 田 孝 作



埼玉退職校長会が結成五〇周年を迎え、ここに「五〇周年記念誌」を発刊されますことは、誠に意義深く、埼玉県退職校長会を代表いたしまして心からお祝い申し上げます。誠にめでたくございます。

貴会は、昭和四三年に埼玉の有志が結成総会を開催して出発したと仄聞しております。以来、会員相互の親睦を図ること、福祉の増進に努めること、教育現場との連絡を密

にすること等を目的として活力ある活動を進めて来られました。

平成二九年度には、二六名の新会員を迎え、総会員五六五名の大きな組織となりました。

これもひとえに貴会の歴代役員をはじめとする先輩各位のご努力と会員皆様方の埼玉の教育に寄せる情熱の賜物であると深甚なる敬意を表すところであります。

ところで、グローバル化、情報化が急速に進展する時代となりました。それに伴い、AI(人工知能)の進歩が社会の大きな関心事となり、これに関連したニュースが報じられない日はありません。

今後、社会の構造に大きな変化が生じるものと予想されます。教育界におきましても、先日、告示されました新学習指導要領にプログラミング教育に関わる指導内容が示されたことも、その証左ではないでしょうか。埼玉退職校長会では、このような時代の流れをしっかりと把握し、「教育支援・社会貢献」と「会員の親睦と福祉」に重点を置き、目的達成に向けた活動を着実に進めて参りたいと存じます。

終わりに、埼玉退職校長会の更なるご発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍を心より祈念いたしました。祝辞とさせていただきます。

本部活動

副会長・事務局長 橋本 久雄

一 設立の推移

設立の経緯について、関根忠男氏が県退職校長会二〇周年記念誌に、次のように述べています。

退職後二三の同志と埼玉退職校長会設立の発起人となり先ず規約を作成。目的に会員の親睦と福祉増進・中正な教育世論の喚起・社会教育への寄与を掲げた。大先輩の多田亨先生（現九三歳）と故岩崎隆先生は特別会員として加入、総じて約五〇名の賛成を得た。

昭和四三年四月二十九日（天皇誕生日）の佳き日に春日部市古利根公園橋に近い宝家を会場として創立総会を開催、日・会場は毎年同じと決定し、県会長高橋正吉先生、両先輩から祝辞激励の辞が述べられた。

年会費は三〇〇円という貧弱な団体であった。主な事業は年一回の総会懇親会と親睦旅行ぐらいであった。この後、多くの事業を計画し充実した事業を実施している。

〈歴代会長〉

日向熙（昭和四三）↓関根忠男（昭

和六〇）↓小林得治（平成四）↓石川正美（平成五）↓大川原了祐（平成一六）↓飯田弥壽嗣（平成一八）↓小林正男（平成二〇）↓岩井清（平成二四）↓卯木郁朗（平成二五）↓山根和夫（平成二八）

〈会員数の推移〉

年	会員数
昭和44	51
50	70
55	157
60	212
平成5	383
10	454
15	484
20	484
25	554
29	565

(一) 地域退職校長会推進協議会
現職校長との交流研修は、北埼玉・南埼玉・北葛合同の東部地区として行われた。

昭和四七年一二月八日加須市民福祉会館で第一回が開催された。樋口幸一氏が恩給問題について、現職校長から課外クラブについて発表があった。

昭和五一年度からは、新たに埼玉として独自に開催することになった。

小学校・中学校・退職校長会の代表者が研究発表を行う。その後質疑応答、指導講評と教育推進協議会に相応しい内容となっている。特に教育の一線を退いた会員にとっては教育現場の課題や実情を知る良い機会となっている。

地域との連携が強調され、支部

でもPTAとの繋がりが必要ということになり、埼玉PTA連絡協議会と話しあいながら、平成二二年度から実施責任の班のPTA会長が来賓として出席するようになった。さらに平成二七年より埼玉各市町のPTA連合会会長い参加するようになった。

県が「彩の国教育の日」を制定した平成一五年に、「彩の国教育の日」協賛埼玉地区現職・退職校長教育推進協議会と名称を変え、現在まで行われている。

(二) 県退職校長会総会の実施

県退職校長会が埼玉地区で五回開催された。

①昭和五八年六月二一日春日部市福祉センターで開催。

○講演「日本人と日本語」
講師 文学博士・国語学者

金田一春彦氏

②平成三年六月一八日 久喜ニュー・八雲で実施。

○講演「鷲宮の神楽―解説と実施」

講師 神楽保存会会長

針谷重威氏

③平成一一年六月四日久喜市文化会館で開催。

○講演「下総皖一先生を偲んで」

講師 大利根町社教指導員

中島睦雄氏

④平成一九年六月八日越谷市コミ

ユニティセンターで実施。
○講演「心学者大島有隣の生涯と業績」

講師 杉戸町文化財保護審議会
会長 野口三男氏

⑤平成二八年六月三日越谷市コミ
ユニティセンターで実施。
○講演「秘すれば花」

講師 観世流シテ方能楽師
関根祥六氏

二 本年度の取組

(一) 定期総会

平成二九年度の定期総会は、平成二九年五月一三日(土)、春日部市視聴覚センターにて開催された。

平成二九年度の取組では、すべての行事に冠として結成五〇周年記念の文言を置くことに決めた。従って、ここ数年定めてきた五項目の努力点を一つ増やし「埼葛退職校長会結成五〇周年記念事業を実施する」を加え、六項目として総会で承認された。新たに二六名が加入した。またこの他の内容については会報五一号に詳述した。
(二) 市町退職校長会情報交換会
平成二二年度から、それぞれの市町退職校長会がかかえている課題を解決するために小林会長より提案され開催された。
今年度は七月六日に開催され、

班退職校長会の活動に参加する会員の増加を図るための方策等について話しあわれた。

(三) 埼葛現職・退職校長会教育懇談会

現職校長会と退職校長会の情報交換を図る目的で、平成二五年七月に、それぞれの会の会長・副会長・幹事・事務局長が出席して、第一回の会議が開催された。
今年度は七月二八日に実施された。夫々の校長会の活動内容の報告、現下の抱える課題等を出し合い、率直な意見交換を通して、大変有益な時間を過ごすことが出来た。

本会の参加者
山根和夫会長・落合三郎・相澤勝寿副会長、橋本久雄事務局長、小島廣司・関根一正・大塚和彦・増田晴一事務局員

四 埼葛現職・退職校長教育推進協議会
別掲(九頁参照)

(五) その他の活動
「各専門部会・合同部会」(五月二五日)、「常任理事会」(一月六日)等を開催した。

また「歴史散歩同好会」「写真同好会」「ゴルフ同好会」「農業経営同好会」等が随時実施されている。

各部の活動報告

研究調査部会

部長 岡島 正男

埼葛退職校長会の研究調査部会が発足したのは平成一三年度である。県の退職校長会研究調査部会はずでに平成八年から始まっている。会員の増加に伴い事務量も増え埼葛支部の組織確立が必要になったのである。

当初は県の調査研究(新会員の再就職・待遇に関する実態調査)への協力が主な活動であった。平成二〇年度からは次のような支部独自の調査も行うようになった。

○各班退職校長会の活動調査、
○全会員を対象とした「社会貢献活動」についての調査である。これらの調査によって全会員の様子を把握することができるようになった。

平成二二年度以降は、新会員のみを対象にした社会貢献活動について現状を勘案した内容に変更している。

昨年度は研究調査部会として新会員の三二名から「社会貢献活動」と「個人活動」(趣味や特技を生かした活動)の実状を調査分析した。昨年の回収率は、八四%と過去数年に比べて高い数値であ

った。調査の結果から以下のことが読み取れた。
現在行われている社会貢献活動

の中でも比率の高いのは市民活動(地域の住民などとともに)等では三〇%を超えている。次に続くものは学校教育支援活動やスポーツ支援活動で二五%の会員が関わっている。退職後の強い活動意欲が伝わってくるようである。また個人的な活動では、すでに趣味や特技を生かした活動をしている方が半数以上であった。

なかには今後資格を取得し専門性を生かした支援ができるようにと準備している方もいた。今後の活動を充実させたいと考えている方も半数にのぼり具体的な内容を検討中のものである。

現職のときはなかなか時間がとれないものであるが、退職後の人生設計をしっかりと考えておく必要を感じさせられた調査結果であった。

今年度も同様の調査等を実施し分析を深めていきたい。

〈歴代部長〉

斎藤富四郎(平13) ↓野口喜和雄(平16) ↓内澤 廉(平18) ↓埜口四郎(平20) ↓山岡恒久(平22) ↓山根和夫(平26) ↓岡島正男(平28)

福利厚生部

部長 萩原 征而

一 五〇年の推移

(一) 研修会 理事の資質向上と親睦を深めることを目的に、平成一・二年度に始まり、平成一三年度より予算を計上して正式に発足した。充実した内容によって所期の目的が達成されたが、会員の高齢化に伴って参加人数が減少してきた。そこで、協議を重ねた結果、全会員に参加を呼びかける「会員研修会」と名称変更し、平成二五年度より平成二七年度まで実施してきた。その後、各市町が担当する「市町研修」が平成二六年度からの発足に伴い、平成二八年度から「埼葛研修」と名称変更し現在に至る。

(二) 県主催「囲碁大会」・「ゴルフ大会」への参加

毎年、個人やグループが積極的に参加し好成績をあげている。

〈歴代部長〉

池田信太郎(平13) ↓ 藤見清(平18) ↓ 久保谷昌夫(平24) ↓ 鈴木英夫(平26) ↓ 萩原征而(平28)

二 本年度の活動

(一) 市町研修 担当「幸手市」

実施日 六月二一日(水)

研修内容 「日光道中幸手宿と

権現堂桜堤の歴史」参加者五四名

(二) 埼葛研修

実施日 一〇月二七日(金)

研修箇所と内容

①「碓氷峠鉄道文化むら」アプト式電気機関車、旧国鉄時代に活躍した車両、鉄道資料館等の見学。②国指定名勝「楽山園」群馬県甘楽町の江戸時代初期に織田氏によって造られた小幡藩邸の「池泉回遊式」庭園他に美術館、歴史民俗資料館等の見学。③こんにやくパーク参加者三八名



本年度の埼葛研修(楽山園)

広報部

部長 石井 昇

一 活動の推移

(一) 会誌の発行

平成四年度に新しく会長になった小林得治先生は長年の懸案であった会報を発行することを総会に提案しました。その意図を「会員の意識高揚と親睦を図るとともに相互の情報交換を目的に」と述べました。編集長を渋谷康、編集員を折笠賢二・斎藤博道先生に委嘱しました。編集委員会が二回の発行の内、前半の号は新会員の紹介を、後半の号は埼葛地区現職退職校長教育推進協議会の様子を中心とする紙面構成にすることを決定し、一〇月、三月にB5版八頁で発行しました。この方針は現在まで堅持されています。その他、毎号とも「退職後の私」を、また年一回必ず地区の退職校長会の活動のようすを掲載いたしました。

その後七月、一二月発行に、さらに平成二一年からA4版八頁に変更しました。さらに紙面を豊かにするために、平成二五年四三号からA4版一二頁に換えました。平成四年に新たに「文芸欄」を設け、俳句・短歌・漢詩を掲載し、七年に随想・詩を加えました。平成二二年一八号に「趣味を語る」がさらに一

七年二七号で「論点・視点」が新設されました。その後「論点・視点」は「ふるとね」に変更し、文芸欄に「誌上ギャラリー」を設けました。このように紙面の構成を改良しながら現在に至っています。

(二) 埼葛ニュースレターの発行

卯木郁朗会長は、「埼葛ニュースレター」を発行することを総会に提案され承認されました。編集委員会で九・二月の年二回発行し、会報に掲載できなかった統計資料を中心に紙面構成することを決定し、平成二六年九月に第一号を発行いたしました。平成二八年に県退職校長会がホームページを立ち上げ、埼葛地区退職校長会の活動も掲載することになりました。会長の指導のもとに広報部が主管することになりました。

県退職校長会の会報の執筆依頼については、班校長会の推薦に従って県に報告するなどの活動を行っています。

〈歴代部長〉

渋谷康(平4) ↓ 但木幹雄(平18) ↓ 内山弘夫(平22) ↓ 石井昇(平24)

二 本年の活動

会報五一号・五二号、「埼葛二ユースレター」七・八号(二月発行予定)を発行。特に会報五二号は創立五〇年号としています。

班活動の報告

春日部市退職校長会
高橋 邦博

一 退職校長会の結成

本会は、平成二年に結成。結成に先立ち、平成元年十月に設立準備会が発足。平成二年九月、発起人会において初代会長に関根忠男氏が就任。二代根本禧弑氏、三代関根幸夫氏、四代関根善吉氏、五代藤見清氏、六代新井良春氏、七代久保昌夫氏、八代望月勲氏が歴任。九代は岩谷征昭氏で現在に至っている。

本会の会則は、平成二年四月一日施行。以後、時代のニーズに合わせ、会則の見直しを行い現在の活動に至っている。

本会の目的は、社会の進展に伴う会員相互の研修を行うと共に、福祉の増進に努めるなど親睦と健康の保持、増進を中核とした事業の推進である。

二 活動の経緯

平成一七年、春日部市と庄和町との合併に伴い、両退職校長会（庄和町退職校長会平成四年に発足（歴代会長）森又三↓中島弘↓染谷昇）も合併し、「春日部市退職校長会」とし結束力を高め、会

の活性化を推進してきた。

三 特色ある活動

本会は、会則に基づき会員の総意を結集し、肅々と継続的に事業を推進している。

(一) 平成二五年度の総会より本市の教育長の御臨席を願い、市内小・中学校の現状、児童・生徒の活動状況等教育情報を含め講話を戴いている。

(二) 八月に賀寿祝い（叙勲・古希・傘寿・卒寿・上寿）を行い、該当者に記念品を贈呈している。

(三) 年三回の懇親会は、全会員が「近況等」のコメントを記入して返信する。A4版四枚に及ぶ枚数を印刷し全会員に配布し情報共有を図っている。総会を含む各懇親会はここ二〜三年参加者が増加している。

四 本年度の活動

(一) 四月八日理事会、総会の原案の検討、新役員選出

(二) 二九年度総会、五月六日

決算、予算の承認、事業報告、事業計画等の承認

(三) 賀寿祝いの会 八月一九日

賀寿該当者の記念品の贈呈

(四) 会員研修 十一月七日の予定
各地域の新しい魅力と伝統文化を訪ねるなど年々参加者数が増加している。

(五) 忘年会 二月九日実施。

近況、趣味等の情報交換

近況報告では、自分の生き方を通じ、趣味、特技等の御披露があり、楽しい一時でもある。

(六) 役員会 三月六日の予定

次年度の計画、課題等の検討

越谷市退職校長会

野口 淳一

一 設立年と活動の推移

越谷市退職校長会の設立は、昭和五三年五月七日。

昭和四〇年代、近隣の退職校長先生方で懇親会を毎年開催。昭和五〇年に越谷市退職校長会懇親会として独立。昭和五三年五月七日、越谷市退職校長会総会が開催され本会が発足した。

〈歴代会長〉

秋山長作(昭五三)↓山田晴重

(昭五八)↓小島誠(平元)↓百木

正一(平八)↓飯田弥壽嗣(平一

二)↓池田信太郎(平一六)↓埜

口四郎(平二二)↓中野茂(平二

六)↓濱野紀生(平二八)

二 特色ある活動

(一) 市独自の会員研修会

定期総会後の研修会とは別に市独自の会員研修会を平成二二年度から毎年開催している。これまで、①越谷の歴史を学ぶことを目的に、

「市内の由緒ある寺社や施設の探訪」、②古来の伝統文化を学ぶ「能楽鑑賞」、③越谷の防災計画を学ぶ「大相模貯水池の見学や講義」、④会員自身の健康維持を目的として「健康体操教室」等々を開催してきている。時には、研修後食事会等を計画し、懇親を深める場としても活用している。

(二) 学校教育支援活動

平成二〇年から埼葛退職校長会が実施した「社会貢献活動の実態調査」結果を受け、本市では平成二四年度から学校教育支援活動をスタートさせた。年度当初の中小合同の校長会の席で説明・周知を図るなかで、①担任の補助、②児童生徒への支援、③学校行事や校内研修への支援等々、校長の要請に応じ対応してきている。また、二八年度から市教委執行部職員、小・中代表校長、本会役員三者合同の懇談・懇親の会を発足させ、教委が立ち上げ主導する放課後学習支援仮称「こぼと塾」を支援している。

三 本年度の活動

会員の福利厚生、親睦・修養等を目的に、教育関係機関や県・埼葛退職校長会、現職校長会等と連携を図りながら、次のような活動を予定している。

定期総会・研修会（一回）、役員会（二回）、正副会長・幹事会（随時）、教委・現職・退職合同懇談・懇親の会（一回）、会員研修会（一回）、学校教育支援活動（年間を通じて）

久喜市退職校長会

神谷 園江

一 活動の推移

新久喜市は、「平成の大合併」により、久喜市・菖蒲町・栗橋町・鷺宮町と四つの市町が合併、新たにスタートした。

久喜市（平成元年新たに会則を設けて発足 会長田口正雄）、鷺宮町（平成二年発足 会長鈴木栄一）、菖蒲町（昭和五二年発足 会長小沢朝一）、栗橋町（昭和六二年発足 会長角田延喜）の四つの退職校長会があり、当時の四市町の会長（久喜市小林正男、菖蒲町田口喜重、栗橋町高橋潔、鷺宮町仲村清）は何度も話し合いを重ね、理事会を開催し会員の意向をくみ上げ、迅速かつ丁寧に統合への布石を積み上げた。その結果、それぞれの退職校長会は地区として残し、大枠で統合するという形で平成二二年に新生久喜市退職校長会が一三五名の会員をもって発足した。

会則は久喜市のそれを土台に埼玉や県を参考に協議と検討を行いまとめ上げた。

以来、定期総会を始め、親睦研修旅行、文化活動発表会、会報の発行を中心に活動をしている。

二 特色のある活動

文化活動発表会は、旧久喜市で行っていたもので、それを新久喜市の継続発展したものである。久喜市中央公民館で三日開催。書画・写真・俳句や短歌・彫刻等展示し一般公開。現職校長の出品もある。さらに、各地区で行っていた親睦旅行は、新久喜で一本化して、平成二七年から実施。

親睦旅行はバス利用、年齢的なことも考慮して、関東の近辺の知られざる名所、旧跡、あるいは美術館を訪ね、新たな発見や驚き等研修しつつ、楽しい交流のひとつを過ごしている。

会報は年一回発行。会員の歩みを刻みながら文化的交流及び情報の共有を行っている。

〈歴代会長〉

小林正男（平成二二） ↓ 高橋潔（平成二五） ↓ 千葉金二（平成二六） ↓ 鈴木秀三郎（平成二八）

三 本年度の活動

(一) 総会 五月六日 久喜市中央公民館で開催、その後懇親会を実施

(二) 研修旅行 旅行地 日光東照宮等一〇月四日実施 参加者二六名

(三) 文化活動発表会 平成三〇年二月二三日〜二六日開催予定
(四) 会報 八号を三月に発行予定
(五) 各地域でグランドゴルフ大会実施

八潮市退職校長会

佐藤 順一

一 活動の経緯

発足までは少人数であったこともあり、一名の幹事を決めて県退職校長会や埼玉退職校長会と連携し活動をしていた。

平成になって現職や教育委員会と退職校長が『平成会』を組織し、三者が一堂に会して情報交換や懇親を深め地域教育の進展に寄与してきた。

平成一二年一月二九日発足準備会で会則や役員等の原案を作り、平成一二年六月二三日の年度総会で発足した。

平成一五年一月八日に「彩の国教育の日」協賛埼玉葛地区現職・退職校長教育推進協議会（八潮市担当）を「四季亭」で開催し、鈴木貞夫会員が学校開放講座の取り組みを発表した。

平成二二年一月二四日に清澄

庭園、富岡八幡宮を訪ね、見聞を広めた。

平成二三年一月七日に雨引観音、益子町西明寺をご住職の案内で見学し、その歴史や文化財としての建物と仏像等に触れる貴重な体験をした。

平成二五年一月二〇日に富岡製糸場と群馬県立自然史博物館を訪ね、研修を深めた。

平成二七年一月二一日に「彩の国教育の日」協賛埼玉葛地区現職・退職校長教育推進協議会（八潮市担当）を「やしおメセナ」で開催し、根岸甫会員がイギリスの教育と校長のリーダーシップについて発表した。

〈歴代会長〉

恩田仁治 ↓ 松田温昭

二 特色ある活動

社会貢献活動として、市内退職教員と退職校長会員の協働活動を実施している。

① 「フリーラーニング」小中学生を対象に年間を通じ、月二〜三回土曜日にやしお生涯学習館で開催している。

② 「夏休み宿題大作戦」夏休み宿題支援活動として夏季休業中に五〜六回開催した。

三 本年度の活動

四月三〇日に総会を開催した。

九月二六日に関宿城博物館、古河歴史博物館、旧谷中村跡地を訪ね見聞を広めた。

蓮田市退職校長会

小澤 勇

昭和四三年、全国市町村で一斉に退職校長会が発足するという見通しを受けて蓮田市でも、その年の四月五日、市内在住の退職小学校長、青年学校長、県立学校長に呼びかけ一名の会員で結成された。発足時、ガリ版刷りの規約が現在でも保存されており、本会の重要な指針となっている。

当市退職校長会の伝統的な行事として研修旅行があげられる。

昭和四九年から一泊二日の県外研修でスタートし、平成六年に二年一回の日帰り研修旅行へ、平成一二年には年一回の一日研修旅行になった。案の早期提示で、毎年半数以上の会員が参加する楽しみな行事となっている。

平成二六年のリニアセンターの研修では走行試験の日で、目の前を時速五百キロ超えのスピードで走るリニアの姿を体感できた。その感覚は、今でも記憶に残っている。今は昼食時の懇親も会員の楽しみになっているようである。

今年は一〇月に群馬県の「かみ

つけの里」に行った。

二つ目は平成一四年から続く健康教室である。この七月は第一六回目の「生き生きと生活できる食事のとり方」をテーマに開催された。健康生活増進のために市役所の保健師や栄養士の方に、これまでいろいろなテーマで指導を受けてきているが実際に生かすには行動が伴わず、教えも忘れてしまうのが正直なところである。教室の最後には昼食をとりながら、気さくに質問が交わされ健康談義に花を咲かせている。

本市では会員数が四〇名程度でありまとまりが良い。今後、まず「会員の親睦を図り福祉の増進」につとめるためにも特色ある活動を推進していきたいものである。

この原稿を書きながら歴代事務局の丁寧な記録に会員の絆の強さを垣間見た思いである。事務局の責務の大切さを感じた次第である。末尾に歴代会長を列挙する。

昭和四三年〜六三年まで

小山芳一↓橋本一郎↓田鍋和吉↓原嶋勇太郎

平成元年〜現在まで

関根毅↓関根武之進↓原嶋三郎↓大川原了祐↓黒須豊↓平久江一郎↓鬼久保健治↓中村尚↓飛田卓二

↓飯野敏雄↓斎藤善雄↓飯野城司↓堀内善仁↓早川健一

三郷市退職校長会

生方 康之

一 活動の推移

我が三郷市退職校長会の歴史は浅く、会としての形が整ったのは平成元年であり、昭和五六年に栄中学校長を最後に退職した清水淑郎先生が初代会長に就かれた。会の発足までは、越谷市に個人会員として所属していたようだ。会の発足後も「人数が少なくて寂しいなあ」という声が聞かれ、今年九〇歳になられた小島康昭元会長の提案で、市外に在住の方にも参加を募り、現在に至っているとのことだ。

爾来、その方たちとも親交を深めておるが、懇親会時の話から、自分たちの興味・関心あるものを追求するような会にもしていきたくと考えるようになった。

こうして、三郷市独自の現地研修会が二〇一二年には初めて行われた。行先は「野田醤油工場」などである。

翌年、第二回目の実施が決まったが、「東日本大震災」が勃発したため、中止となってしまった。二〇一四年、流山市に移し、

「近藤勇陣屋敷」など流山本町界限を、流山史跡ガイドの会の方の案内で歩いた。

二〇一五年は、通称「やねせん」の谷中・根津・千駄木を巡った。この頃から、昼食に現地の名物をいただくということになった。

二〇一六年の昨年は、一般にはあまり知られていない「裏浅草」を訪ねた。王貞治氏が少年時代に野球をしていたグラウンドや、逆さ東京スカイツリーを映す川面などが印象に残っている。

〈歴代会長〉

清水淑郎↓中村義挟↓白井英治↓小島康昭↓野本全↓内澤廉↓赤佐隆↓内山弘夫↓阿部佑二↓高橋明↓逆井洋一

二 本年度の現地研修会

本年も総会で逆井会長の下で今年の活動が議案通り承認された。

今年二〇一七年は、「豊かな自然や歴史に思いをはせる散策研修」と題し、「江戸城東御苑」が行き先にきました。雨の中の散策であったが大変興味深いものであった。

この二年、細かな資料を用意し、現地ガイドまがいの案内をしてくれる新会員が現れたので、知人や家族と再訪することもできること

が嬉しい。
これからも、若い会員が増える
ことで、三郷市退職校長会の活
性が図られることだろう。

白岡市退職校長会

石塚 敏雄

一 設立の推移

白岡町退職校長会は、構成員が
一〇名に達したのを区切りとして
規約を作り、平成六年に新たに発
足した。

発足当初は年会費千円であった
が、その後平成一八年度に二千元
になり、現在に至っている。また、
会員の慶弔見舞規定が平成一八年
度より施行され、七七歳喜寿に達
した会員へ花束贈呈をすることと
弔事については花輪を供えること
としている。

平成二四年一〇月に白岡市制施
行に伴い、白岡町退職校長会から
白岡市退職校長会となった。

〈歴代会長〉

大高進（平成元）↓石川正美（平
成四）↓中村勉（平成二七）↓辻
勝明（平成二八）

二 本年度の活動

今年度の会員数は二四名である。
（女性二名、男性二二名）

年々高齢化しているが、新会員
の加入は少ない。新会員の加入が

課題である。ここ数年は二〇数名
で推移している。

五月に市の定期総会を開催した。
事業報告・決算報告・事業計画・
新役員人事を決定した。

同日、現職の市内各小中学校長、
教育長を招いて懇親会を開催し、
親睦を深めるとともに、市内の各
小中学校の教育の現状について相
互理解を図った。常日頃から連携
をとり、全員参加である。

今年度の本市からの埼葛退職校
長会への役員としては、埼葛理事
会へ二名、福祉部、厚生部一名そ
の任に就いている。

埼葛研修三名、市町研修に二名
が参加した。

二月に新年懇親会を開催する予
定である。

会員の親睦を深めるとともに、
次年度に向けての人事案や活動計
画原案を策定する。そして、県・
埼葛・市の次年度の会費を集金す
る。

なお、昨年度は久喜の会場にお
いて、埼葛の現職退職校長教育推
進協議会の当番地区となり、二年
前からの会場予約に始まり、開催
にこぎ着けるまで、準備会議を重
ね、事務局の指導のもと、無事責
任を果たすことができました。皆
様のご協力誠に有り難うございま

した。
会員数の少ない本市の活動であ
るが、今後も発展させていきたい。

宮代町退職校長会

小林 尚

一 設立年

昭和六二年三月一八日、宮代町
東集会所において設立に向けた発
起人会が行われた。そして四月二
五日、設立総会が開催され会員数
一六名でスタートした。

二 主な活動の経緯

(一) 平成一一年

茨城県立自然博物館へ研修
旅行実施。(年一回実施)

(二) 平成一九年

同好の士によるグラウンドゴ
ルフの開始。

(三) 平成二四年

「学校支援登録者名簿」の
作成。(以後毎年更新)

(四) 平成二五年

埼葛地区現職・退職校長教
育推進協議会で「学校支援登
録者制度」実践発表

〈歴代会長〉

会田平和(昭六二)↓小林喜意智
(平四)↓神田政夫(平九)↓渋谷
康(平一五)↓関野潤(平一九)↓
折原平吉(平二一)↓長濱秀男
(平二六)

三 特色ある活動

(一) 学校支援活動
この活動は、町内児童・生徒
の健全な育成を目指す事を趣旨
に行われている。毎年「学校支
援登録者名簿」を作成し、町内
各小・中学校に活用して頂き、
町内七校すべての小・中学校に
おいて支援活動を行っている。

さらに、学校教育だけではなく、
自ら進んで広く地域社会に尽力
している会員も多い。

(二) 研修旅行

会員から研修地の希望を聞き、
役員会で研修先を決定する。具
体的なコースの選定やバスの手
配、そして下見まですべて役員
会が行っている。まさに手作りの
研修旅行である。この研修旅
行は、見聞を広め資質の向上を
図るとともに、会員相互の懇親
を深める良い機会であり、参加
者からも好評を博している。

四 本年度の活動

(一) 学校支援活動(四月〜三月)
年間を通して学校・地域で活動。

(二) 総会・懇親会(四月三〇日)
会員数三七名。和やかに実施。

(三) 研修旅行(九月二九日)
山梨県韮崎方面(大村美術館等)

(四) 会員研修担当者会(一二月)
テーマ「宮代町を知ろう」

(五) 役員会 (七・八・一・三月) 研修旅行・総会等に関する協議

幸手市退職校長会

赤川 昌行

一 設立年

平成四年一月三日設立総会

二 活動の経緯

昭和四〇年、「松菊会」の名称で、幸手町在住の退職校長会と現職校長会との交流の会が、「会員相互の親睦を図るとともに、併せて教育の振興に寄与する。」を目的に発足した。その後、時代の趨勢から、平成四年に幸手市退職校長会が設立され、新たな船出となった。

〈歴代会長〉

- 山本儀範(平4) ↓ 糸雅庸(平6)
- ↓ 飯田豊(平8) ↓ 岡廣男(平12)
- ↓ 白田善次郎(平16) ↓ 八代圭司(平21)
- ↓ 小澤嘉一(平23) ↓ 中村淳男(平28)

三 特色ある活動

(一) 会員研修を年に二回実施している。①会員の特技や学識・趣味等を生かした会員講師による研修。②視察研修やものづくり体験等の日帰り研修。

(二) 本会のスタートとなった「松菊会」を現在も開催している。

(三) サークル活動として、グラウ

ンドゴルフが週二日行われている。四 入会時、現職中の経歴等をまとめた会員個票をいただいている。

四 本年度の活動

(一) 定期総会・懇親会の実施

来賓として、市長・教育長・現職校長会長の御臨席をいただく。

(二) 埼葛退職校長会事業の「市町研修」を当市担当として実施

「日光道中幸手宿と権現堂桜堤の歴史」の講演等。

(三) 会員研修の実施

絵画鑑賞会・料理体験教室

四 松菊会の開催

現職・退職校長間の情報交換や親睦を図るため、懇親会を実施している。今年で五二回となる。

(五) グラウンドゴルフ大会の実施

参加者はゲームを楽しみ、事前の練習会や大会後の懇親会も行っている。今年で二〇回目を迎える。

(六) 暑気払いや忘年会の開催

会員相互の情報交換及び親睦を図っている。

(七) 役員会の開催

事業の前に実施している。

五 その他・社会貢献活動

会員は趣味や特技を活かして、次のような活動を行っている。

人権擁護委員、選挙管理委員、

区長・自治会長、民生児童委員、

少年指導委員、学校応援団員、学

校評議員。また、ボーイスカウトの育成活動、自然を守る活動、朗読ボランティア活動、農業体験の支援活動など。

杉戸町退職校長会

仁部 前明

一 設立年及び活動の経緯

本会がいつ創設されたかについては、新井恭治さんが「私は昭和五五年に、退職して入会した」

(「埼葛退職校長会会報」三号)とあるので、昭和五五年にはすでにできていたと思われる。

同じく平成四年、会員九名にアンケート調査を実施した。その結果について、「会則などを作らず

今まで通り進める。会費は必要に応じて集める。年一・二回の会合を持つようにする」などの記載があり、設立当初の様子が窺われる。

以後の活動の経緯は次のとおりである。(当会計簿・総会資料)

昭和時代 総会・懇親会の開催

平成九年 「現職・退職校長会懇親会」を開催

平成一七年 「教委・現職退職校長懇親会」を開催

平成二四年 「教委・現職退職校長懇親会」とする。

平成二四年 「教委・現職退職校長懇親会」に「意見交流会」を追加

平成二五年 研修旅行「浅草ぶらり会」を実施・「教委現職退職校長懇親会」と隔年で開催する。

平成二九年 会員数は三三名となる。

〈歴代会長〉

樋口幸一―高田福松―新井恭治(平三)―古谷好男(平八)―渡辺富美男(平一五)―高島貞夫(平二二)―仁部前明(平二五)―清水信武(平二九)

二 特色ある活動(隔年実施)

『教委・現職・退職校長意見交流会・懇親会』

教委・現職・退職の三つの会の代表が自由に意見を発表する。

これまでに、教委からは、「教育の現状と課題」、現職校長からは、「手品」「人間教師力を磨く」

退職校長からは「絵画教育と人間づくり」「オカリナ演奏」「老人ホームのボランティア」等々の発表があった。

「杉戸町の教育」に理解を深め、退職校長の意欲的な充実した生き方にふれる交流の場となっている。

三 本年度の活動

(一) 総会及び懇親会(四月二三日)

。来賓 伊藤教育長様

(二) 芸術の森ぶらり会

文化遺産めぐり(二月二日)

。目的地 上野公園

スタートは、西洋美術館、旧東京音楽学校奏楽堂をはじめ、上野の森の文化遺産を巡り歩いた。参加者一七名。

「ぶらり会」の名のとおり、ゆったりと歴史や文化にふれ、親睦を深める一日となった。

松伏町退職校長会

福井 和義

一 活動の経過

松伏町退職校長会は平成二年八名で発足し、平成四年には一四名になりました。その時の目的は「健康と長生きを旨とし、松伏町の教育の発展に陰に陽に協力していきたい」でありました。初代会長に中川恒中先生を選び、毎年総会を行い会員の懇親と増員を図ることを決議しました。平成九年に会則ができました。

〈歴代会長〉

中川恒中―高鹿平―倉持充胤―須田敏男―新井清司―奥住公夫―小林忠盛―福井和義

二 本年度の活動

現在は、一七名ですが、会員の協力により組織も整備されて活動も充実しています。

平成二九年四月一五日に総会が行われて、事業計画、情報交換を行いました。

現職退職校長研修会、懇親会は七月一四日に行いました。そこでは各校の生徒指導等の課題を話し合いました。

十一月一八日に実施される結成五〇周年記念、彩の国教育の日協賛、埼葛地区現職退職校長教育推進協議会は、松伏町田園ホール・エロラで実施されました。

松伏町退職校長会は、この日にむけて努力してきました。

次に会員の活動ですが、自分の目標をもって活躍しています。例えば、

① 松伏町は、生涯スポーツの振興で総合型地域スポーツクラブを推進しています。

この総合型地域スポーツクラブの理念は、町民のだれもが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツを楽しむことができるように環境づくりを進めることです。

また、総合型地域スポーツクラブは、⑦健康ヨガ、④ケンコ―吹き矢、⑦エンジヨイダンス、⑤フラダンス等があり住民の主

体的な運営により、全ての世代の人々が、学校や公共施設を利用しながら、スポーツに親しめる環境づくりを目指しています。このような総合型地域スポーツクラブの役員、指導者。

② 子供たちの体力向上、健全育成を目指して、少年野球チームの指導者。

③ 町民の人権を守る人権擁護員。
④ 豊かな教職経験を生かして、生徒指導、不登校児童生徒の教育相談等で活躍してきました。

吉川市退職校長会

城取 英孝

一 設立の推移

会員数一六名になったことから組織的活動を行うという趣旨で、会則を作り、平成五年に正式に発足した。

〈歴代会長〉

木村斗三造↓大島正康↓嶋根豊↓会田八千代↓逸見経夫↓利根義明↓矢田部良一↓蒲田久治↓染谷耕三↓岡田千代三↓城田怜持↓上野哲男↓木村弘子↓高橋寅彦↓鈴木静↓菅谷利勝↓山崎秀雄↓羽角行雄↓鈴木博

二 特色ある活動

青少年育成吉川市民会議の正会員として加入し、企画運営に携わっている。

同会議の主催事業である「吉川市青少年健全育成大会」では、市内の小・中一校と県立吉川美南高校の代表児童生徒によるあいさつ標語、あいさつ作文、社会体験、少年の主張の発表が行われている。参加者は毎

年二百数十名を超える。発表児童生徒には多数の一般市民の前で貴重な経験を提供している。同じく、「グリーン作戦」では、小・中学生と吉川美南高校生、市内ボランティア団体、民間企業の社員等と共に吉川駅周辺の清掃活動を実施している。

退職校長会としては、こうした活動に参加することで、次代を担う青少年の健全な育成に資することにも、地域への貢献を高めて行きたいと考えている。

また、吉川市には高校が、吉川美南高校一校のみである。そのため、小・中学校と高校の連携は緊密で、小・中・高の教職員の交流が四〇年前から始まっている。小学生が高校の教員から授業を受けるなどの活動も行われていた。現在も現職退職校長懇親会には小・中・高と市教委が一堂に会して実施している。

三 本年度の活動

(四月)

○総会、懇親会
(十一月)

○「グリーン作戦」参加

○「青少年健全育成大会」参加
(十一月)

○役員会

○現職・退職校長懇親会
(三月)

○役員会